

みんなで「火天の城」を応援しよう！ 舞台はここ、「安土」です!!

安土町観光協会事務局長 大林 義孝

日本建築史上最も華麗な城といわれる「安土城」。今はなきこの城が、今秋、全国のスクリーンで蘇ると伺い、今からとてもワクワクしています!



ほんの四百年前にはここ

安土に実在した城。電気も車もない時代にどうしてあんなすごいものが建てられたのでしょうか。信長の熱き野望と未知の挑戦に果敢に挑む人々の姿が目に見えます。皆さまには、この機会にぜひ安土の地を踏み、当時繰り広げられた壮大なロマンを感じ取っていただければと思います。

映画の制作には、安土からエキストラとしてバスで多数応援に駆けつけました。また、今後開催される「安土信長まつり」の前夜祭(5/30)では、「火天の城」原作者で、このたび直木賞を受賞された山本兼一氏の講演会を開催するなど、映画公開に合わせ、楽しい企画も多数考えています!日本の宝である安土城をテーマにした映画「火天の城」を滋賀県民のみならず歴史ファン・映画ファンのみならず盛り上げていきましょう!映画の大ヒットとともに、安土への皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

「火天の城」ロケ現場 高島市より想うこと

高島市商工観光課 渡会 純一

今回の映画では、長期ロケ現場として高島市をご利用いただきました。滋賀県でも主に南部は近年めざましい発展を遂げていますが、高島市は都市化の波をかわり逃れてきたおかげで、



自然と共に暮らしてきた美しい風景が今も多く残っています。高島の昔ながらの民家や棚田、護岸工事されていない川などの素晴らしい風景は、時代物だけではなく現代物でもたびたび撮影に利用されます。これは、かつてはどこにでもありふれていた「日本の原風景」に、観る者の心を癒す力があるからではないでしょうか。私たちが日常何気なく暮らしている風景を、全国の方々に観ていただけることは嬉しい限りです。

高島を舞台とした作品でなければ、ロケ地が脚光を浴びることはありませんが、奥山から里山、川、琵琶湖に至る豊かな自然と私たちの暮らしが注目されることは何よりの誇りであり、私たちにとっての日常である「日本の原風景」に価値があることを気付かされます。次回またロケが高島を訪れるとき、私たちはこの誇りを胸に、関係者やエキストラの皆様、見学に訪れる方々をお迎えしたいと思います。

私たちは、滋賀の素晴らしい風景や文化などを全国に紹介するため、 滋賀ロケーションオフィスの活動を支援しています。

滋賀県信用保証協会	(株)中央精器滋賀支店	琵琶湖ホテル	滋賀県興行協会	(株)滋賀銀行
ひこねステーションホテル	琵琶湖汽船(株)	(株)びわこ銀行	北びわこホテルグライツエ	近江タクシーサービス(株)
NTT西日本(株)滋賀支店	長浜ロイヤルホテル	宮川印刷(株)	関西電力(株)滋賀支店	(株)井筒屋
新江州(株)	びわ湖放送(株)	(株)南洋軒	(株)TMオフィス	大津プリンスホテル
ランチサービスポポロ	白浜荘	明治亭(株)		

(H19年度協賛企業 敬称略・順不同)

編集 後記

今号は、映画『火天の城』特集として発行しました。この作品には、ロケ地となった地元の区長さんをはじめ区民の方々、エキストラで参加された方々などのバックアップのおかげで、無事に撮影を終えることができました。ひとりでも多くのおみなさんに鑑賞いただければと祈っております。

今後も映像を通じて、滋賀県の風光明媚な景色や文化を全国に発信していきたいと考えています!

(A.K)



©火天の城製作委員会

滋賀ロケーションオフィス ニュース 第14号 平成21年(2009年)3月18日発行

発行：滋賀ロケーションオフィス
(社団法人びわこビジターズビューロー内)
〒520-0806
滋賀県大津市打出浜2番1号
「コラボしが21」6階
TEL：077-511-1537
FAX：077-523-7555
E-mail：info@shiga-location.jp
URL：http://www.shiga-location.jp
サポーター登録者数 1,191人
(平成21年3月1日現在)

幻の城安土城が、今ここに蘇る!

《安土城を築城する前代未聞の大偉業と、それを成し遂げた人々がスクリーンに蘇る。歴史感動大作!》

西田敏行
福田沙紀
椎名桔平
大竹しのぶ

原作「火天の城」直木賞作家・山本兼一
監督 田中光敏
www.katen.jp

9月12日(土) 全国ロードショー

滋賀で長期ロケ敢行 滋賀県は映画「火天の城」を応援しています!

海津大崎(高島市) 1より駅:日良湖西側マキノ駅
安土城天主信長の館(安土町) 1より駅:日良湖西側安土駅
安土城跡(安土町) 1より駅:日良湖西側安土駅
高島市でのロケ風景

びわこビジターズビューロー 滋賀ロケーションオフィス 実行委員会

特集

火天の城



ロケ誘致と県内ロケ地での現場レポート

平成19年の夏「幻の城 安土城 築城」をテーマとした作品を撮りたいとお話が制作会社からありました。

山本兼一さん(直木賞作家)著書『火天の城』の映像化により、安土城がスクリーンに蘇る!これはぜひとも本県での撮影を実現したい!!という思いから積極的に誘致活動を行いました。

制作会社のスタッフとともに琵琶湖畔から山中まで県内各地をくまなくロケハン(※)した結果が実を結び、滋賀県内で昨年の9月から11月にかけて長期ロケが敢行されました。

この作品には滋賀ロケーションオフィスのサポーターのみなさんなど、多くの方々にエキストラとして参加いただきました。

また、県、関係市町をはじめ、地元のみなさんと一緒になって様々なロケ支援を行いました。

今回は、映画『火天の城』特集としてロケの様態などを紹介します。

※ロケーションハンティングの略=撮影場所を探すことです。

2007年9月～2008年5月

ロケ誘致 (撮影を行うかどうかの準備段階)

「安土城を築城する」という壮大なストーリーであることから、安土町をはじめ、県内各所の関係者の皆様にも大変お世話になりながら県内で撮影が行われるよう準備段階から何度も制作会社と滋賀ロケーションオフィスとで協議、調整を行いました。

2008年6月～8月

ロケハン (撮影場所を探しました)

滋賀県内の山や川、湖畔、広場、城など、数えきれない場所へ行き、台本(映画)のシーンに見合うロケ場所を根気よく探しました。夏場ということもあり、とても暑い中でのロケハンでした。



※写真に写っているのは、監督をはじめ撮影スタッフです。



2008年8月

オープンセットの建設

安土城を築城する宮大工の棟梁である岡部又右衛門が率いる匠たちの作事場や村が高島市安曇川町にリアルに再現されました。オープンセット内に立っていると戦国時代へタイムスリップしたように感じられました。



2008年9月～11月

滋賀県でのロケ

9月4日から大津市内の神社での撮影を皮切りに高島市内の河川、湖畔、木之本町の神社、西浅井町の湖畔など各所でロケが行われました。

県内でたくさん行われたロケの一部を紹介します!

9/14 高島市安曇川町のオープンセット

一日の仕事を終え、夕食の順番を待つ匠たちの間でもめ事がおこり、大乱闘になるシーンなどの撮影が行われました。たくさんの役者さん達が暴れて、もみくちゃになるなど熱気あふれる演技に圧倒されました。



9/26 木之本町の神社と西浅井町の湖畔

この日は、大竹しのぶさん演じる岡部又右衛門の妻・田鶴が安土城築城に欠かすことのできない巨大な親柱を待ちわびるシーンが撮影されました。特に散水車から大量の水を降らせた雨降らしの撮影は圧巻でした。



10/3 高島市安曇川町のオープンセット

血気盛んな大勢の男達が蛇の紋が入った巨大な石(蛇石)を天主付近まで引き運ぶシーンが撮影されました。滋賀ロケーションオフィスからのエキストラのみなさんも早朝からロケ現場近くの公民館に集合して映画の衣装に着替えメイクをしてもらい、身も心も戦国時代へ! また、撮影中に滋賀県知事、高島市長、安土町長が訪れロケ現場を見学した後、キャストや撮影スタッフ、エキストラの皆さんを激励するというサプライズがありました。この模様は、テレビや新聞でも取り上げられました。



10/4 高島市安曇川町のオープンセット

前日に引き続き蛇石を引き運ぶシーンや、突然の出来事に逃げまどう村人達のシーンなどが撮影されました。この日も朝早くから数多くのみなさんにエキストラとして参加していただきました。また、この模様をびわ湖放送「びびドキッ!」で牧田アナウンサーがエキストラ体験レポートとして取材されました。



10/5 高島市安曇川町のオープンセット

朝からの雨にもかかわらず178名ものエキストラのみなさんに来ていただきました。天気回復を祈り、公民館2カ所待機しましたが、午後1時にロケ延期決定。撮影現場にもたどり着けずの人も…。ほんとに残念な1日となりました。



10/7 高島市マキノ町海津

琵琶湖に棧橋を設置し、木曾の巨木の到着を匠たち家族が喜ぶシーンや、和船を浮かべて又右衛門が出迎えに行くシーンが撮影されました。湖水がとても透明で湖岸には印象的な岩があり、遠景まで現代物が写らないことが撮影場所として選ばれました。



11/1 高島市安曇川の河川敷

織田軍勢の戦艦をはためかせ、赤の軍団が戦へ赴くシーンなどを撮影しました。この日もたくさんの方々からエキストラとして参加していただきました。寒いなか、川の中に入っている撮影は大変ご苦労様でした。



この映画へのエキストラ参加の募集には、高島市や安土町をはじめ、滋賀咲くブログ、県内の大学など、たくさんの方に協力していただきました。延べ643名(応募総数約900人)もの人達にエキストラとして参加していただきました。